昭和二十一、三、二五

沖縄作戦に於ける
第三十二軍史実資料(一)

第三十二軍残務整理課

沖台
沖縄
37

防衛研究所図書館

一般史料

沖縄作戦に於ける第三十二軍史実資料

昭和二十三年三月二十五日
第三十二軍残務整理課

防衛研修所戦史室

2400c-2
1-1

沖台
沖縄
37

沖縄関係戦史資料

沖縄作戦に於ける第三十二軍史實資料

沖縄作戰に於ける第三十二軍史實資料

昭和二十二年三月二十五日

第三十二軍殘務整理部

目次

第一　軍の基本的任務

第二　作戰準備

第一期（航空作戰準備）

第二期（捷號作戰準備）

第三期（天號作戰準備）

第三　戰鬪經過の概要

A　軍主力方面の戰鬪

其の一　上陸準備砲爆擊（自三月二十三日　至三月三十一日）

其の二　前進部隊の戰鬪（自四月一日　至四月五日）

其の三　敵の本格的攻擊開始迄の戰鬪（自四月六日　至四月十八日）

其の四　敵の本格的攻擊より軍の攻勢までの戰鬪（自四月十九日　至五月五日）

其の五　軍の攻勢中止より首里戰線撤退迄の戰鬪（自五月六日　至五月二十八日）

其の六　軍の喜屋武半島地區への退却　（自五月二十九日 至六月　四日）
其の七　喜屋武半島地區の戰鬪　（自六月　五日 至六月二十三日）
B　國頭支隊の戰鬪
C　慶良間方面の戰鬪
D　海上戰鬪
E　沖繩周邊に於ける我が航空部隊の戰鬪
第四　組織的戰鬪終結後より終戰前後に於ける狀況
第五　觀察
別紙第一　第十方面軍司令官の第三十二軍司令官に授與せる感狀
別紙第二　戰鬪開始時に於ける在沖繩本島部隊一覽表
別紙第三　戰鬪開始時に於ける在沖繩本島第三十二軍主力の軍隊區分
別紙第四　戰鬪開始時に於ける沖繩本島外第三十二軍諸部隊の展開一覽表
別紙第五　戰鬪開始時に於ける軍司令部首腦部一覽表
別紙要圖第一（捷號作戰に於ける）
其の一　第三十二軍兵團部署要圖
其の二　敵が糸滿正面に上陸せる場合の攻擊指導要領
其の三　敵が嘉手納海岸に上陸せる場合の攻擊指導要領
其の四　獨立混成第四十四旅團の防禦配備要圖
別紙要圖第二　第三十二軍兵團部署要圖（自昭和一九、一二上旬 至同　二〇、一中旬）
別紙要圖第三　第三十二軍兵團部署要圖（昭二〇、一中旬以降）
別紙要圖第四　第三十二軍作戰經過概見圖
別紙要圖第五　第三十二軍攻擊移轉經過（計畫）要圖
別紙要圖第六　喜屋武半島地區第三十二軍主力防禦配備要圖
別紙要圖第七　國頭支隊及慶良間方面戰鬪經過概見圖

第一、軍の基本的任務

海空軍と協同し北緯二十八度十分より東經百二十二度三十分に亘る南西諸島を防衛するに在り

第二、作戰準備

軍の作戰準備は昭和十九年四月一日軍統帥權の發動以來昭和二十年三月下旬戰鬪開始迄の滿一ケ年間に於て太平洋作戰の進展に伴ひ其の規模内容屢々飛躍的に變改せられたり今之を概觀するに軍統帥發動後よりマリアナ線崩壞の昭和十九年七月上旬迄を作戰準備第一期爾後同年十一月中旬に至る捷號作戰準備間を作戰準備第二期更に戰鬪開始に至る天號作戰準備間を作戰準備第三期に大別し得べし以下右區分に從ひ軍の作戰準備の概要を記述せんとす

第一期（航空作戰準備）

本期間は、所謂鐵壁陣地線と稱せられたるマリアナ線を主陣地帶とし我が南西諸島線は後方陣地帶的作戰任務を有したる時期にして作戰準備の方針は航空作戰準備を主とし地上作戰準備を從とし且全般を

通じて我が南西諸島の作戰準備に對する大本營の熱意努力は次等的にして頗る低調的なり

一、航空作戰準備

軍が任務に基き計畫實施せる航空作戰準備の概要左の如し

德之島

第一、第二飛行場

第一飛行場は昭和十八年末以來航空本部が既に設定に著手しありしが軍之が作業を繼續せり作業擔任部隊として飛行場勤務中隊一を充當せり

第二飛行場は單に偵察に止め第一飛行場の概成後著工する豫定なり

伊江島

東、中、西飛行場

沖繩本島

北、中、南、東飛行場

伊江島中、沖繩北兩飛行場は昭和十八年末以來航空本部が既に設定に著手しありしが軍之が作業を繼承せり

作業擔任部隊として第十九航空地區司令部飛行場勤務大隊二、同中隊一を充當せり

宮古島

東、中、西飛行場

先ず西、中兩飛行場の設定を開始し其の進捗に伴ひ東飛行場の設定に著手する豫定なり作業擔任部隊として飛行場勤務大隊一同中隊一を充當す

石垣島

石垣島飛行場

作業擔任部隊として飛行場設定隊（乙）一を充當す

以上各飛行場は大本營命令に基き昭和十九年七、八月頃迄に概成すべき豫定なりしも飛行場設定に任ぜられたる前記諸部隊は殆全部設定專門部隊にあらず

然も是等部隊の到著展開は五月以後なりしと一部海沒せる等の事情に因り軍官民（一日平均約五萬の島民を使役せり）の努力に拘はらず一般の作業は必ずしも豫期の如く進捗せざりき

二、地上作戰準備

軍隷下の地上作戰兵力劣弱にして單に敵小艦艇の奇襲攻擊に對し飛行場港灣等を直接警備し得るに過ぎず其の展開部署の概要左の如し

大東島地區

大東島支隊（歩兵約一聯隊）

四月下旬主力を以て南大東島各一部を以て北、沖大東島に展開す

奄美群島地區

奄美守備隊（獨立混成第二十一隊、重砲兵第六聯隊（奄美大島重砲兵聯隊を改稱す）基幹）

五月下旬主力を以て德之島各一部を以て喜界島、奄美大島、沖永良部及與論島に展開す

沖繩本島地區

獨立混成第四四旅團、重砲兵第七聯隊（中城灣要塞重砲兵聯隊を改稱す）基幹主力を以て島尻地區一部を以て伊江島及本部半島地區に展開の豫定なりしも混成旅團の殆全部は六月下旬古仁屋沖に海沒し七月中旬に至る迄沖繩本島地區には重砲兵第七聯隊飛行場設定關係部隊等を有するのみなり

先島群島地區

獨立混成第四十五旅團重砲兵第八聯隊（船浮要塞重砲兵聯隊を改稱す）

基幹主力を以て宮古島各一部を以て石垣及西表の兩島に夫々展開する豫定なりしも獨立混成第四十五旅團も亦獨立混成第四十四旅團と共に海沒し七月中旬に至るも先島群島地區に於ける地上戰鬪兵力は皆無に近き狀態に在り

三、其の他の作戰準備

航空資材の揚陸竝に將來大兵團の上陸する場合を顧慮し德之島、伊江島、沖繩本島、宮古島及石垣島の諸港灣竝に一部交通路の新設改修を實施せり

四、第一期作戰準備間に於ける一般の狀況竝に敵情判斷

1. 隷屬系統の變更

第三十二軍は當初大本營の直轄軍なりしも昭和十九年五月上旬西部軍司令官の隷下に入り更に七月中旬臺灣軍司令官（第十方面軍と改稱す）の隷下に入り大本營の直轄を離れしは大本營の指揮統卒を簡易にする爲西部軍司令官の隷下に入りしは從來南西諸島は西部軍の防備擔任地域なりしと補給關係の爲又臺灣軍に轉屬せられたるは作戰軍たるの性格の一致を必要とし且補給關係は西部軍の隷下にあるより寧ろ臺灣軍の隷下に在るを便とせる爲なりと云ふ第三十二軍司令官としては純作戰上の見地よりは勿論補結系統の結節を簡單にする爲にも終始大本營直轄軍たることを希望せるも遂に實現の運びに至らざりき

2. 敵　情

南西諸島近海に於ける敵潛水艦に因る我が船舶の被害は甚大なりしも未だ敵機の來襲を受けず第三十二軍に關する限り一般の狀況は平靜にして僅かに久米島南大東島及沖大東島が敵潛水艦の威嚇砲擊を受けたるに過ぎず

3. 敵情判斷

軍は左の如く敵の進攻を判斷せり然して其の公算大なればハの場合にして其の時機は遠き將來（明二十年春季以降）と考慮しありしもイロの算又絕無とは斷じ難く此の際に於ては其の進攻時機は今年夏秋候なるべく然るときは殆無防備に近き南西諸島は一擧に易々として敵手に入るの危險あるに鑑み急速に兵力を增强し萬一に備へんことを希望せしもマリアナ線の增强急を要し且之が保持の確信せられたる當時の狀況に於ては問題とならざりき

イ、マリアナ線と同時に從深突破す

ロ、マリアナ線奪取後十分準備を整へたる後所謂二段攻擊式に南西諸島を攻擊し來たる

ハ、依然島續き戰法を採用しニューギニア比島臺灣を經或は其の一部を省略し南西諸島を攻擊す